

教育課程

概要

教育課程編成の意義や方法について、理論と実践事例を往還しつつ、他者との議論を通して理解を深める。また、教育課程に基づく教育の方法について、理論と実践事例を往還して理解を深めつつ、具体的な技術の習得を目指す。

担当教員	坂本 篤史
授業形態	講義
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1,2年 栄養教諭
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

教育課程編成の目的や方法と、教育方法の理論や実践とを関連づけて、基礎的な理解の構築とスキルの習得を目指す。学習指導要領の改訂やカリキュラム・マネジメントについての理解を深めると共に、今後求められる授業実践の在り方と、その具体的方法などについて、知識を得て、議論し、理解を深める。

各回の内容

1. ガイダンス 進め方と評価
2. 教育課程とは
3. 学習指導要領の歴史の変遷
4. 社会に開かれた教育課程
5. 教育課程編成の基本原則と方法
6. 教育課程編成の事例検討 - 教科・領域横断の視点から
7. 教育課程編成の事例検討 - 長期性と地域性の視点から
8. カリキュラム・マネジメントとは
9. これから求められる教育方法
10. 教育内容 教材 子どもとの関連から
11. 求められる学力と学習評価
12. 情報技術を活用した指導と学び
13. 授業実践の事例に学ぶ - 指導技術の観点から
14. 授業実践の事例に学ぶ - 学習指導の観点から
15. 本講義のまとめ：学習指導案の作成

準備学習（予習・復習等）

授業で取り上げた問題について、自分の考えを時間をかけて整理すること。
授業で紹介された参考資料や配布された資料を熟読し、授業で考えた問題についてより多面的に考えを持てるようにすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

教育課程編成の目的や方法と、教育方法の理論や実践とを結び付けて基礎的な理解が構築できたかどうか、またスキルの習得ができたかどうかについて、以下の事項をもとに評価する。

1. 授業における協議への貢献（30%）、2. 授業中の提出物の内容及び表現（30%）、3. 講座終了後に提出する最終レポートの内容（40%）

教科書

特になし

参考文献

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）
中学校学習指導要領（平成29年3月告示）
田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加奈恵（2011）「新しい時代の教育課程 第3版」有斐閣アルマ
秋田喜代美・坂本篤史（2015）「学校教育と学習の心理学」岩波書店
佐藤学（2010）「教育の方法」放送大学叢書

生徒指導

概要

東日本大震災後の教育復興を念頭に置きつつ、これまでの生徒指導について、その課題と在り方について論じる。学校経営や学級経営、学級集団作りを考えていくうえで、学校、家庭、地域の連携に根差したものの見方、感じ方、考え方を養う。栄養教諭としての資質である子どもの発達と家庭生活への対応についても深める。

担当教員	鈴木 庸裕
授業形態	講義
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻 栄養教諭
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

- ・子ども理解を基本として、個性の伸長や自己指導能力の育成、「生き方の指導」について理解し、家庭や地域の諸状況を踏まえた学校における生徒指導の実際に対応する資質能力を高めることができる。
- ・生徒指導をめぐる今日的課題を実践的に学ぶことによって教職者としての資質能力を高めることができる。

各回の内容

1. 生徒指導をめぐる今日的課題
2. 生徒指導の理論と方法
3. 学級経営と学習～子どもの学力保障と生徒指導の機能～
4. いじめ問題、非行問題へのアプローチ
5. 不登校問題へのアプローチ、家庭養育への接近
6. 食をめぐる子ども理解
7. 学校が行う家庭支援、学校の福祉的機能
8. 児童虐待と生徒指導
9. 試験

準備学習（予習・復習等）

毎回、テキストや講義中に指示した資料をもとに要約レポートを作成して講義に備えること。また、講義中に指示した学術的な論点を講義のまとめとしてレポートにする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業参加状況（50％）、課題レポート（50％）

教科書

鈴木庸裕著『教師のためのワークブック・子どもが笑顔になるスクールソーシャルワーク』かもがわ出版

参考文献

授業内で指示する

教育相談（栄養教諭）

概要

「教育相談」は、簡潔に言えば「教育現場で実施される、あらゆる相談」ということになるが、そこには、保育の対象である子どもから中高生を対象とするものまで、幅広い実践が含まれるため、対象者によって、教育相談に必要な知識はさまざまである。しかしながら、教育相談におけるカウンセリングマインドやスキル（技法）は、対象者が違ってもほぼ共通していることを理解し、教育者がその部分をしっかりと身につけておけば、どの教育現場においても、適切な相談対応ができるはずである。本科目では、主に保育現場で展開される教育相談を念頭に置くが、少し幅を広げた話題も取り入れていく。

担当教員	築田 美抄
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養専攻2年 栄養教諭
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

教育（保育）現場における教育相談の意義と理論を理解する。
 教育相談を勤める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解する。
 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

各回の内容

1. 教育相談の意義 事例 による理解
2. 教育相談の全体像と用いられる理論・概念
3. 教育相談におけるカウンセリングマインド
4. 教育相談に必要なカウンセリングスキル
5. 教育相談に必要なカウンセリングスキル
6. 事例（保護者との信頼関係と連携）
7. 事例（保護者との信頼関係と連携）
8. 事例（子ども同士のトラブル）
9. 事例（すぐに暴力をふるってしまう子ども）
10. 事例（障害をもつ可能性がある子どもー幼小連携のメリット）
11. 事例（気になる子ども）
12. 「不登園・不登校」への関わり
13. 「虐待が疑われる子ども」への関わり
14. 保護者からの相談（特別な事情について）
15. 保護者からの相談（子育ての悩み）
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予習として、各回とも、教科書の該当箇所を読み、授業に参加すること。
 都度、当日の授業のテーマに関して、復習する内容を指示する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 70%
 毎回の感想文 30%
 試験の解答および解説は掲示する。

教科書

大野精一編著「教師・保育者のための教育相談」（萌文書林、2017）

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

教職実践演習（栄養教諭）

概要

教育実習に臨んだ結果をふまえて、教育現場で望まれる資質や能力を高めるため、総合的に栄養教諭としての知識と実践力を培う。

担当教員	津田和加子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

今までの学習の振り返りをし、具体的事例について、不足している知識技能を補完できるような演習を行う。短大2年間で学んだ必要な知識技能を基に、教員としての使命感や責任感などを持って栄養教諭として実践できる能力を修得することができる。

各回の内容

1. 今までの学修の振り返りについて

2. 教職の意義や教員の役割

3. 学級経営について

4. 小学校での校内協力体制と児童とのコミュニケーション

5. 中学校での校内協力体制と生徒とのコミュニケーション

6. 教科等の効果的な指導について

7. 栄養教諭について

8. 特別支援教育について

9. 家庭（保護者）との連携について

10. 地域との連携について

11. 個別相談指導（肥満など）

12. 個別相談指導（食物アレルギーなど）

13. 教材研究 - 学習に合わせた教材

14. 教材研究 - 効果的な教材

15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：今までの学修を振り返り自分の課題について整理しておく。

復習：配布プリント等を用いて復習する。レポートを提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

各会の振りかえりレポート、課題への取り組み70%、課題レポート30%

教科書

プリントを配布する

参考文献

授業内で随時紹介する

栄養教育実習事前事後指導

概要

栄養教育実習のための事前指導事後指導を受け、書類の書き方や授業案の作成を中心に学ぶ。また、教育実習の成果をまとめ、発表の場を通して学びを深める。

担当教員	津田和加子
授業形態	演習
学期	前期後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90分×15回
単位数	1

目標

教育実習に必要な知識および具体的な準備ができる。また事後には、実習報告会を実施することを通して、学びの体験を整理し、深めることができる。

各回の内容

1. 栄養教諭資格取得についてのオリエンテーション
2. 栄養教育実習の心得、栄養教諭資格取得者としての心構え
3. 栄養教育実習校依頼手続きおよび書類に関する準備
4. 栄養教育実習についての諸注意
5. 実習校との打ち合わせ
6. 授業計画に関する検討
7. 授業計画に関する検討
8. 教育実習記録簿のまとめ
9. 教育実習後の総括的ふりかえり
10. 栄養教育実習での問題点の整理
11. 栄養教育実習後の問題点の検討
12. 栄養教育実習報告会の告知と案内
13. 栄養教育実習報告会の計画
14. 栄養教育実習報告会準備
15. 栄養教育実習報告会準備

準備学習（予習・復習等）

配布プリント等を予習・復習する。栄養教育実習報告会の準備を行う。指導案やレポートを作成する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題に対する取り組み50%、栄養教育実習報告会の準備と発表内容50%

教科書

プリントを配布する

参考文献

前年度の教育実習報告会資料

栄養教育実習

概要

多岐にわたる「食に関する指導」の全体計画とその実際を、教育現場において体験的に学ぶ。栄養教諭にとって、学校給食は生きた教材と言われている。その教材といえる給食づくりを「給食管理学外実習」で、体験してきた。それを踏まえて、栄養教諭としての実習を行う。

担当教員	津田和加子 土屋久美
授業形態	実習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	集中5日間
単位数	1

目標

学校管理者をはじめ学級担任との連携による実習を通して、栄養教諭として必要な知識と実践力を高めることができる。

各回の内容

1. 指導教諭等からの説明（学校経営、校務分掌、服务等）
2. 児童生徒への個別的な相談指導の実習
3. ・児童の相談の場の参観および補助など
4. 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習
5. ・学級活動および給食の時間における指導（参観及び補助も含む）
6. ・教科などにおける教科担任などと連携した指導の参観、補助
7. ・給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の観察、補助
8. ・児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の観察、補助
9. ・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究など
10. 食に関する指導の連携・調整の実習
11. ・校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修など）の参観、補助
12. ・家庭・地域との連携・調整の参観、補助

準備学習（予習・復習等）

予習：指導案の作成など研究授業の準備

復習：実習報告書の作成

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

栄養教諭実習録20%、各実習校からの評定（桜の聖母短期大学栄養教諭実習成績評価表）80%をもとに評価する。

教科書

プリントを配布する

参考文献

新学習指導要領（平成29年） 栄養教諭論 実践研究 栄養教諭のための学校栄養教育論

栄養教諭活動論

概要

食に関する指導に関係する法令や学校教育における食の指導場面とそのあり方について学び、栄養教諭の役割及び職務内容を理解する。

担当教員	津田和加子 土屋久美
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90×15回
単位数	2

目標

現代の児童及び生徒の栄養に係る問題を理解し、食に関する課題を踏まえた上で、食に関する指導の方法を修得する。これらを通して、栄養教諭としての基本知識・技術を身につけることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 食生活に関する歴史・文化
3. 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題
4. 栄養教諭の職務内容、使命、役割
5. 発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材
6. 食の指導に係る全体的な計画
7. 食に関する指導の展開
8. 給食の時間における食の指導
9. 教科における食の指導（家庭科、技術・家庭科）
10. 教科における食の指導（その他）
11. 道徳、特別活動における食の指導
12. 総合的な学習の時間における食の指導
13. 家庭、地域と連携した食の指導および、食の指導をする上での配慮
14. 指導案作り
15. 指導案の発表・相互批評

準備学習（予習・復習等）

教科書の次回授業内容を読んでおく。配布プリント等の復習をする。指導案の作成・模擬授業発表の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題および授業に取り組む態度20%、指導案作成40%、模擬授業40%をもとに評価する

教科書

金田雅代著『三訂 栄養教諭論 - 理論と実際 - 』建帛社

参考文献

新学習指導要領（平成29年） 栄養教諭論 実践研究 栄養教諭のための学校栄養教育論